

子どもの障害について

佐賀大学小児科
松尾宗明

子どもの障害の原因

- 先天的・遺伝的要因
 - 染色体や遺伝子の異常
- 周産期の障害
 - 胎児期の異常：胎内感染、薬物・アルコールなど
 - 出生時の異常：新生児仮死
 - 出生後新生児期の異常：未熟性に伴う障害など
- 後天的な障害
 - 脳炎・脳症など病気の後遺症
 - 溺水、交通事故など
 - 虐待

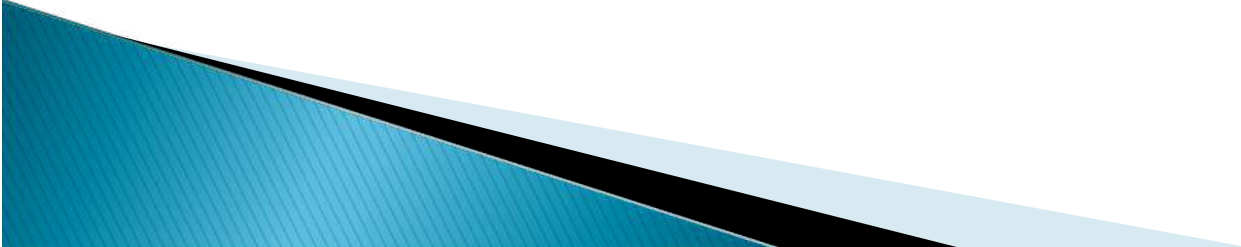
障害の原因と障害部位・障害種別の関係

	障害部位	障害種別
▶ 染色体異常	中枢神経	知的障害
▶ 遺伝子異常	視覚・聴覚	発達障害(自閉症)
▶ 周産期異常	骨関節	運動麻痺
▶ 病気	循環器	骨格変形
▶ 事故など	呼吸器	呼吸障害
▶	消化器	視聴覚障害
▶	泌尿生殖器	膀胱直腸障害
▶		嚥下障害

子どもの障害の特徴と概要

- ▶ 大人との違い
 - 発達の側面：発達段階における課題・問題の変化
 - 障害の原因となるイベントと症状発現のギャップ
 - 機能獲得後の障害と獲得前の障害
 - 可塑性の大きさ、教育・療育の重要性
- ▶ 一緒に生活する家族の側面

目に見える障害（身体的障害）

- ▶ 先天異常
 - ▶ 脳性麻痺
 - ▶ 神経筋疾患
 - ▶ 後天性障害
- 

先天異常

- ▶ (たとえば) 脊髄髄膜瘤の場合



手術して外見はよくなるが
障害が残存



下肢の運動障害
関節の変形・脱臼
排尿・排便障害



脳性麻痺

- ▶ 受胎から新生児期までの間に生じた、中枢神経の非進行性病変に基づく、永続的なしかし変化する運動および姿勢の異常
- ▶ 原因は周産期障害(出生時の仮死など)が多い
- ▶ 頻度: 約1,000人に1人
- ▶ 痙直型、アトローゼ型、失調型
- ▶ 片麻痺、対麻痺、両麻痺、四肢麻痺
- ▶ 知的障害は約2/3に合併
- ▶ てんかんは、約1/3に合併

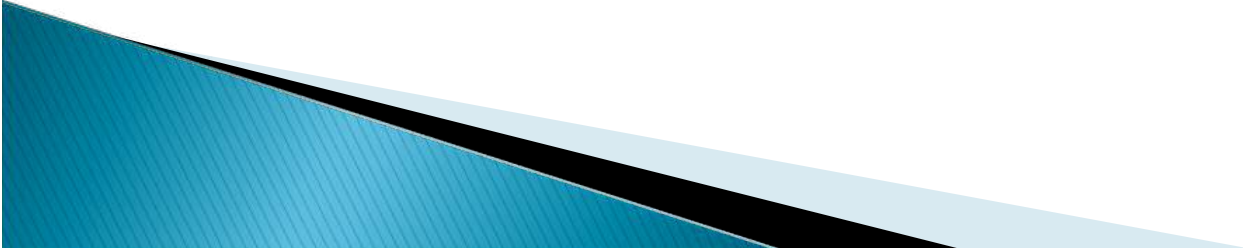
脳性まひ（四肢麻痺）



脳性まひ（両麻痺）



神経筋疾患

- ▶ 様々な原因による筋力低下による障害
 - ▶ 運動、呼吸、嚥下などが種々の程度に障害される
 - ▶ 発症時期は様々
- 

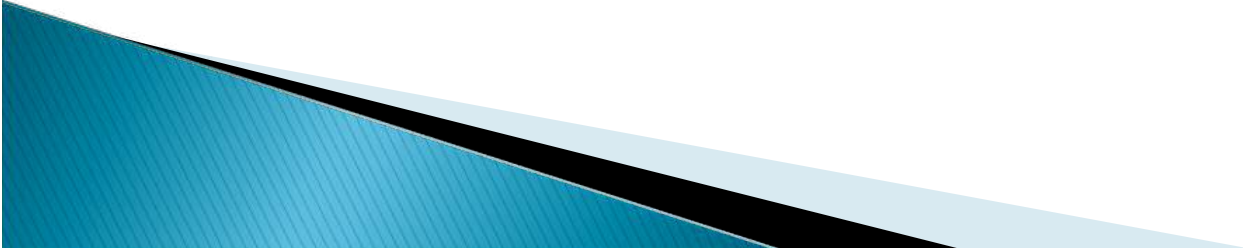
身体障害だが目に見えないもの

- ▶ 内臓の障害
 - 心疾患
 - 肝疾患
 - 腎疾患
 - 先天代謝異常
 - 糖尿病など
- ▶ 感覚器の障害
 - 視覚
 - 聴覚
 - 痛覚：先天性無痛無汗症

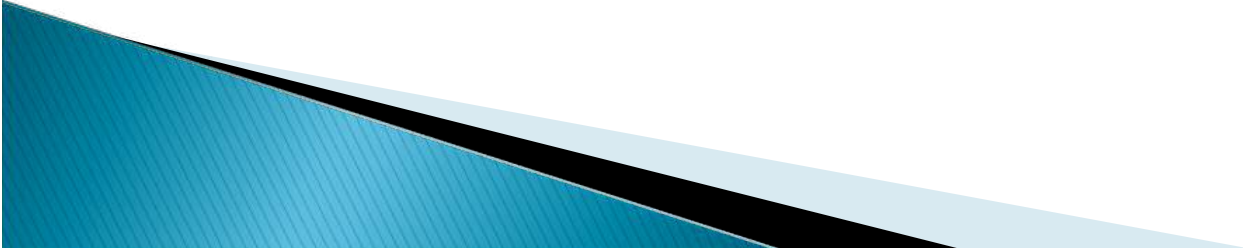
後天性障害

- ▶ 脳炎などの後遺症
- ▶ 事故、虐待によるもの
 - 交通事故
 - 溺水
 - 乳児揺さぶられ症候群

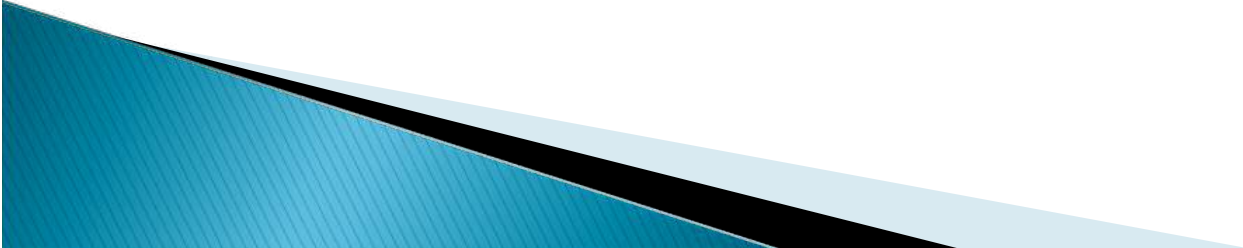
目に見えない障害

- ▶ 知的障害
 - ▶ 学習障害(限局性学習症)
 - ▶ 自閉症スペクトラム
 - ▶ 注意欠如多動性障害
 - ▶ てんかん
- 

目に見える障害での問題

- ▶ 移動
 - ▶ 身辺処理、日常生活動作
 - ▶ 外観
 - ▶ 重症になると呼吸・循環など生命維持活動そのもの
- 

目に見えない障害での問題

- ▶ 危険の認知ができない
 - ▶ 勝手な行動、外出
 - ▶ 指示理解の困難さ
 - ▶ 奇声・大声
 - ▶ 器物破壊
 - ▶ 異食
 - ▶ 不潔行為
- 

障害へのアプローチ

- ▶ 原因疾患からのアプローチ
- ▶ 原因疾患の病態に基づく疾患特異的なアプローチ

- ▶ 障害種別・症状からのアプローチ
- ▶ 障害となっている症状を軽減する、社会生活への適応を図るアプローチ

障害へのアプローチ(1)

▶ 身体不全に対して:

治療的アプローチ

①原因の治療・機能障害そのものの改善

②合併症の予防と治療

▶ 能力障害(disability)に対して:

代償的アプローチ

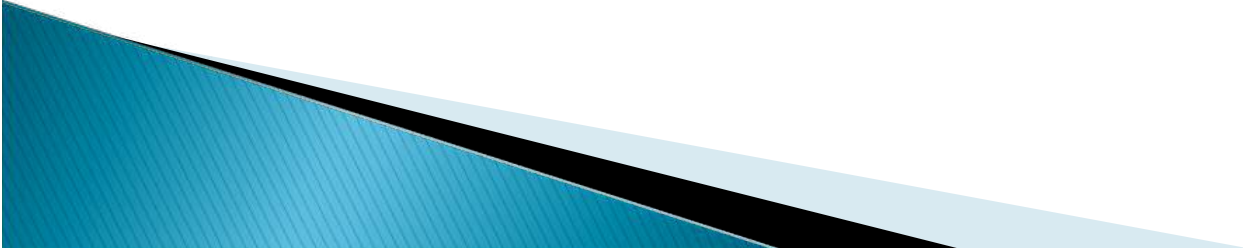
①残存機能の強化、応用能力の増進

②補助具の利用

障害へのアプローチ(2)

▶ 社会的不利に対して:

改革的アプローチ

- ①生活環境の整備
 - ②家族・周囲の人間の意識改革
 - ③教育の機会確保
 - ④職業的自立の援助
 - ⑤経済的自立の保障
 - ⑥社会参加・レクリエーションへの援助
- 

自閉症の特性に合わせた対応

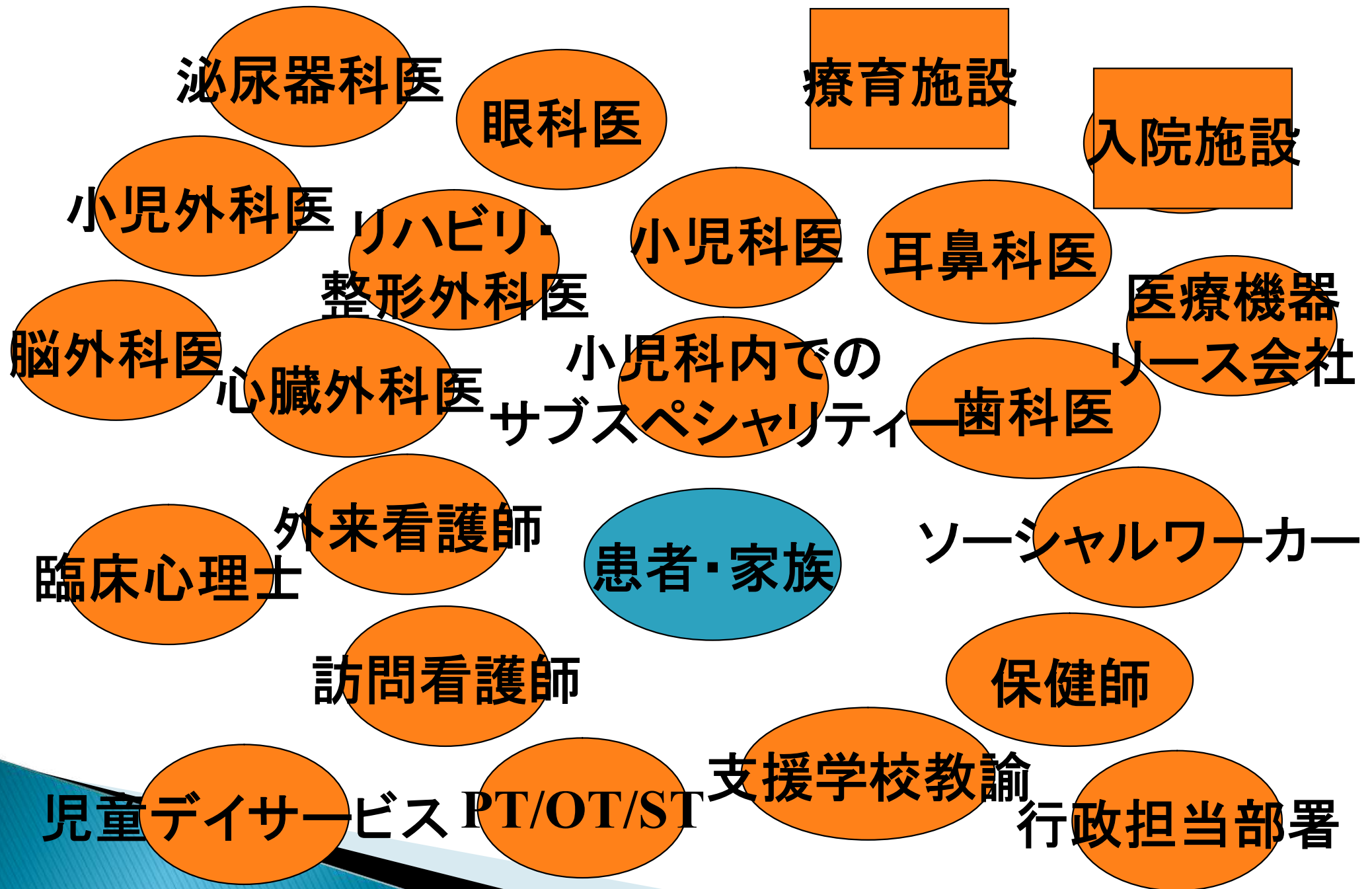
情報を整理して、順序立てて与える

- ▶ 時間的構造化: スケジュール
- ▶ 空間的構造化: 場所と活動の関連性
- ▶ 作業課題の構造化: 課題、手順を示す
- ▶ 予告する、見通しを与える
- ▶ 視覚情報を利用する
- ▶ わかりやすく短い言葉で、あいまいな表現をさける、具体的に
- ▶ 感覚の過敏やゆがみに配慮する
- ▶ 刺激の制御: 落ち着くスペースの確保、狭い場所がいい

障害児医療の問題点

- ▶ 1人の人が様々な障害をもっている。
- ▶ ⇒それぞれの障害についての専門家が対応。
- ▶ 専門家同士の連携
- ▶ 全体を把握する専門家の必要性
- ▶ 医療と福祉・教育の連携
- ▶ 医療者側に福祉の知識が不足

障害児のためのネットワーク



連携の問題

- ▶ 全体を見渡し情報をつなぐ人材
 - ▶ 連携のイニシアチブをとる人材
 - ▶ お互いの情報交換の場
 - ▶ 行政・施策への反映
- 